

ユニバーサルデザインの視点を取り入れた

「分かる!」「できる!」学校全体で取り組む授業の土台づくりハンドブック 活用事例

1 活用した項目(該当する内容は□を☑に変えて表示)	
<input type="checkbox"/> すべての子どもを対象とした校内支援体制整備の在り方	<input checked="" type="checkbox"/> すべての子どもにとって過ごしやすい環境づくりと実践例
<input checked="" type="checkbox"/> 「分かる」「できる」を実感できる授業づくりの進め方と実践例	<input checked="" type="checkbox"/> 「分かる」「できる」を実感できる授業づくりチェックシート

2 活用場面

- 広報としての取組、初期研修者への校内研修、職員会(校内研修)

3 活用対象

- 全職員

4 活用の詳細

- 1 【広報としての取組】
 - ・ ハンドブックの活用方法について4月初めの職員会において全職員に知らせる。
 - ・ いつでも手に取って見ることができるようカラー印刷し、職員室入り口に掲示する。
 - ・ カラーデータを共有ホルダーに保管し、いつでも印刷できるようする。
 - ・ 「特別支援教育通信」に『「わかる」「できる」を実感できる授業づくりの進め方と実践例(P21)』について、参考資料として添付する。
 - ・ 全ての子どもにとって過ごしやすい環境づくりと実践例を説明する。(P13)。
 - ・ 学期毎に重点的に見て欲しい実践例を配布し、学級設営の際の参考にしてもらうなど意識向上を図る。(刺激の調整・整理整頓への手立て・活動の見通し)
- 2 【初期研修者への校内研修】
 - ・ チェックシートを使って、自分の学級経営・授業づくりになぜ必要なのか考える。
 - ・ 研究授業の際、教科指導の在り方のみの視点に加え、『「わかる」「できる」を実感できる授業づくりの進め方と実践例(P21)』も参観の視点として設定するようにする。
- 3 【職員会(校内研修)】
 - ・ 学期初め等に、「実態把握の方法(P22)」について、児童・生徒の実態を把握するために活用する。
 - ・ 主題研究の時間にチェックシートを使う時間を設定し、現在の自分の学級経営・授業づくりについて振り返りを行う。効果的な事例について共有したり、授業改善のための協議を行ったりする。
 - ・ 主題研究と合わせて活用できそうな部分の紹介をする。(一斉指導の工夫 P23、一斉指導の中での個別支援 P27)